

<山口湾の干潟を守る会（藻場・干潟保全活動支援事業）>

山口県漁協山口支店と榎野川漁協の組合員を中心に構成された「山口湾の干潟を守る会」では、21年度から始まった藻場・干潟保全活動支援事業により、干潟の保全活動を行う組織として、昨年度に引き続き、アサリ管理（被覆網の設置、交換）とナルトビエイ駆除（8～10月までの計5回で合計17尾）の干潟保全活動に取り組みました。



被覆網交換の様子



ナルトビエイ駆除の様子

<カブトガニワーキンググループの取組>

山口湾のカブトガニ産卵場、生息場の保全を図るため、カブトガニワーキンググループ（原田直宏グループリーダー）を中心に取り組んでいます。平成23年度は、8月28日に長浜でボランティア等43名、8月30日に南潟で県職員7名によるカブトガニ幼生の生息状況を把握するための調査を行いました。

その結果、発見された幼生は長浜550個体、南潟126個体の計676個体で、調査開始から最大に分布していました。

また、調査の前に、原田氏からカブトガニの生態や見つけ方等についての説明、山口大学工学研究所山本浩一准教授からカブトガニ幼生の生息環境に関する研究発表が行われ、参加者がより深くカブトガニについて知ることができました。



事前説明の様子



カブトガニの幼生



調査の様子

<第13回自然再生協議会>

第13回目の会議を平成24年2月4日（土）、山口県漁協山口支店で開催しました。当日の参加者数は28名（構成委員56名）でした。

まず、山口大学工学研究所藤井暁彦氏から、アサリの生活史を考慮した資源動態の定量化と資源再生・保全策の研究成果を、さんらいずやまぐち一む（山口県立大学生等で構成）古屋氏から、榎野川流域活性化の取組みとして、干潟耕耘やワークショップの実施などの発表がありました。

次に、平成23年度の活動報告（自然再生モニタリング等）及び平成24年度の活動計画、第5期自然再生協議会の委員公募について話し合われました。

最後に、山口湾で養殖に成功した幻のノリ・カイガラアマノリについて、山口県漁協山口支店原田副委員長から摘採作業等の解説の後、試食会で振る舞われました。



協議会の様子



紅きら（カイガラアマノリ）

※ 資料の公開方法
協議会で公開された資料及び議事要旨等については、榎野川河口域・干潟自然再生協議会のホームページ（<http://eco.pref.yamaguchi.lg.jp/fushino/index.html>）で公開しています。
※ ご意見・ご質問等の問い合わせは、事務局（山口県環境生活部自然保護課）に電話、FAX、メールでご連絡ください。
TEL 083-933-3060、FAX 083-933-3069、E-mail a15600@pref.yamaguchi.lg.jp
制作・発行：環境省 中国四国地方環境事務所 ホームページ（<http://chushikoku.env.go.jp/>）

榎野川河口域・干潟自然再生協議会 ニュースレター

No.8

発行日：平成24年3月
事務局：榎野川河口域・干潟自然再生協議会

このニュースレターは、榎野川河口域・干潟自然再生協議会で話し合った内容や自然再生の取組の状況などをお知らせするものです。平成23年度の取組状況は以下のとおりです。

実施日	内 容
4月 5日	干潟モニタリング（南潟）：目視調査（以降適宜実施）
5月 6日	山口湾の干潟を守る会（藻場・干潟保全活動支援事業）アサリ（間引き）、被覆網の管理、モニタリング等（以降適宜実施）
	榎野川河口域・干潟自然再生協議会（第1回：通算12回）住民参加による干潟耕耘（耕耘、被覆網設置）、干潟観察会（南潟）
8月 22日	ナルトビエイ駆除/榎野川河口（8月～10月まで計5回実施）
	カブトガニ幼生生息状況調査（自然再生協議会：カブトガニワーキンググループ）
9月 24日	干潟 de 生物観察会
10月 23日	希少野生動植物種保護支援員研修会
2月 2、3日	自然再生協議会全国連絡協議会（静岡県）
	榎野川河口域・干潟自然再生協議会（第2回：通算13回）
3月 下旬	やまぐちの豊かな流域づくり推進委員会

<第12回自然再生協議会>

第12回目の会議を平成23年5月7日（土）、山口県漁協山口支店で開催しました。当日の参加者数は32人（構成委員56名）でした。会議では、平成22年度の事業実績（自然再生モニタリング、藻場・干潟再生整備事業、カブトガニワーキンググループの取組）と23年度の活動計画について説明があり、積極的な意見交換が行われました。

自然再生協議会会議終了後、榎野川河口の幸を味わう試食会として、榎野川河口域（南潟）で育ったアサリのみそ汁、山菜や稚アユの天ぷらが振る舞われ、干潟耕耘前においしい料理をいただきました。



協議会の様子



アサリのみそ汁



試食会の様子



試食会の様子

<南潟 干潟再生活動>

平成23年度は、5月7日に地域住民のみならず、クワやスコップを利用して人力で約4500㎡の干潟を耕耘し、一部で被覆網や竹柵の設置を行いました。その後、定期的なモニタリングを行いました。新たに設置した網の下にも、アサリが順調に成長しています。

干潟再生活動の様子

干潟の耕耘と被覆網や竹柵の設置を行いました。また、参加した子ども達を対象に干潟観察会を行い、干潟を身近に感じてもらいました。



耕耘作業の様子



竹柵設置の様子



干潟観察会

全員集合

干潟再生活動は、小雨の中、榎野川河口域・干潟自然再生協議会委員や地元地域住民のみならず総勢216名で行いました。



<干潟 de 生物観察会>

23年度からの新たな取組として、干潟の役割や重要性を学んでもらうことを目的に、干潟の生物観察会を開催しました。観察会には、小学生6名(保護者7名)、大学生10名、一般3名が参加し、干潟の役割等の事前講習の後、干潟へ移動し生物観察会や生物ビンゴゲーム等を行いました。南潟は、カブトガニ等の希少な生物もみられ、生物の多様性が高い干潟の一つです。観察会でも20種類以上の生物が観察できました。右のページに南潟で見られる干潟の生物の一部をご紹介します。



勉強会の様子



観察会の様子



干潟の生物

<南潟で見られる干潟の生物>

二枚貝のなかま	巻貝のなかま	エビ・カニのなかま	その他の生物
<p>アサリ(軟体動物)</p> <p>潮干狩りの代表種</p>	<p>ホソウミナ(軟体動物)</p> <p>干潟で良くみられる巻貝</p> <p>殻は塔形</p>	<p>オサガニ科(節足動物)</p> <p>目が長く立上がる</p> <p>甲羅は横長</p>	<p>カブトガニ(節足動物)</p> <p>長い尾をもつ</p> <p>丸く固い甲羅</p> <p>★希少</p>
<p>ユウシオガイ(軟体動物)</p> <p>殻は、白、黄色、ピンクで色彩に富む</p>	<p>イボウミナ(軟体動物)</p> <p>ホソウミナに似るが、肩部が強張り出し、やや大型</p>	<p>コブシガニ科(節足動物)</p> <p>甲羅が丸い</p>	<p>ヤドカリのなかま(節足動物)</p> <p>ウミナガの殻などを利用して生活</p>
<p>ソトオリガイ(軟体動物)</p> <p>殻は白く半透明</p> <p>殻の後部が開いている</p>	<p>アラムシロ(軟体動物)</p> <p>荒くて大きな模様。通常褐色</p>	<p>モクスガニ科(節足動物)</p> <p>ハサミは、大きく付け根に毛がある</p>	<p>フジツボのなかま(節足動物)</p> <p>コケ、石、竹に付着して生息</p>
<p>ホトトギスガイ(軟体動物)</p> <p>殻の模様が野鳥のホトトギスに似る</p>	<p>イボキサゴ(軟体動物)</p> <p>厚いレンズ型の貝。青灰色と黄色の交互柄</p>	<p>ハクセンシオマネキ(節足動物)</p> <p>雄の片方のハサミが大きい</p>	<p>ゴカイのなかま(環形動物)</p> <p>砂や泥の中に潜って生活</p>
<p>オキシジミ(軟体動物)</p> <p>殻は黄橙色、濃紫色</p> <p>殻質は厚く、良く膨らむ</p>	<p>ツメタガイ(軟体動物)</p> <p>卵塊</p> <p>殻の色は灰褐色</p> <p>殻の底は白い</p>	<p>アナジャコ(節足動物)</p> <p>深い穴に潜って生活</p>	<p>ミドリツバメガイ(触手動物)</p> <p>頭に触手を持つ</p> <p>腹と背に殻を持つ</p> <p>★希少</p>
<p>マテガイ(軟体動物)</p> <p>殻は直線的な長筒型</p>	<p>アカニシ(軟体動物)</p> <p>殻の内側が赤い</p>	<p>テッポウエビ(節足動物)</p> <p>片方のハサミが大きい</p>	<p>アマモ(海草)</p> <p>細長く、葉は緑色。干潟に生育する海草の代表種。</p>